

まにわ恭子 NEWS LETTER VOL.70 最終号

発行日／2023年3月13日
発行者／まにわ恭子 <http://ikiikihiroshima.jp/>

馬庭恭子事務所
〒730-0051
広島市中区大手町2-5-11-204
TEL/FAX 082-541-3151
ikiikihiroshima@illy.ocn.ne.jp
広島市議会議員控え室
TEL 082-504-2616
FAX 082-244-1620
Maniwa-k@giin.city.hiroshima.jp

🎧 恭子の議会つれづれ ～最後の本議会 総括質問～

◆ 図書館移転について

広島市の図書館移転問題は、2020年3月に市が老朽化した中央図書館と関連する施設を『中央公園内での文化施設の集約を検討』しはじめたことから始まりました。しかし2021年9月に「エールエールA館」を運営する第3セクター広島駅南口開発(株)が、市に中央図書館などをエールエールA館に移転することを求める要望書を提出。それを受けて市側は市議会でエールエールA館への移転方針を説明しました。2022年3月には移転のための設計費を盛り込んだ2022年度当初予算が成立しました。同時に移転先の比較検討や利用者らへの丁寧な説明をするよう求めた付帯決議も採択されました。

松井市長は2023年1月の定例会記者会見で「市民のみならず議会や有識者への説明、理解を得る手続きを経ることができた」と述べています。しかし今回の2月議会で、図書館移転問題を取り上げたのは総括質問をした議員11人中5人で、特に移転反対の立場で質疑した議員は4人。「付帯決議したにもかかわらず、それが守られていない！」と訴えましたが、市の答弁は「付帯決議に沿って市民から広く意見をお聞きし丁寧に説明しました。最後は議会が決めることで、理

解をしていただき手続きを経ることができた」と繰り返すばかりです。

市民団体は、広島市議50人(定数54、欠員4)を対象にした公開質問を実施。2月5日に公表した回答結果では移転賛成(自民党・市民クラブ)など15人、反対(自民党・保守クラブ3人、日本共産党4人)など14人、無回答(自民党・保守クラブ6人、公明党8人、市民連合6人)など21人でした。市議会の多数が諸手を挙げて賛成という状態からはほど遠い結果!!

なぜ、このような事態になっているのかは明らかです。「エールエールA館を運営する赤字経営の第3セクター広島駅南口開発(株)を支援したい」「図書館という公有財産を入居させれば、市民の税金で運営をまかなえる」「お客さまが少なくなった核テナント福屋も救いたい」という思惑があるからです。その思惑に賛成!としているのが市長与党です。数を力にシャンシャンと議決すれば、移転は決定となります。

専門家や市民の意見をきくことも、基幹中央図書館としてのありかたを議論することもなく、移転の方針を決めてしまいました。検討されたという経緯も証拠もありません。市民への意見公募(パブリックコメント)の



結果は「移転はいかなものか」という反対意見が圧倒的に多かったという事実はどうなるのでしょうか。まったく市民の意見の無視です。市は「あくまで参考意見をお聞きするのであって、賛成か反対か聞いたわけではない」と答弁。説明も議論も不十分なまま、市民の疑問や懸念は解消できていないのに、市民の望まぬ結論を押し付け、推し進めていいものでしょうか。

新聞報道のなかで「市長に恥をかかせられん」と自民党議員の言葉が掲載されていました。まさに市長べったり議員の本音がみえます。このようなリーダー、議会でのいのでしょうか。私は残念でなりません。この春は統一地方選挙があります。いったい誰が市民の代弁者にふさわしいのでしょうか。市長は市長与党の議員の報告会や集会に出席し「この人を落としてはいけない」と挨拶しているということです。市長との距離感は大事で、議員は行政の監視役という権能を忘れてはいけません。

他の総括質問 ◆ 国際平和文化都市の市長としての政治姿勢について

- ◆ 多文化共生について ◆ 新型コロナ5類移行後について ◆ 精神保健福祉行政について ◆ 内部監査について

市議会 こぼれ話

議場(質疑を行う一般質問の場)で、各会派のメンバーが登壇する時は、それぞれの会派からエール? 儀礼? の拍手があります。当然メンバーの多い会派だと議場では拍手量が多いのです。

国会では、与党と野党は明確にわかれているので、間違っても登壇の時に与党は野党の拍手はしないし、野党は与

党に拍手はしません。むしろヤジがとんでいる状態です。広島市は、拍手をする人、しない人、寝ている人、中座をして席にもいない人など様々です。ただ、市長与党は絶対に私の登壇には拍手はしません。ですから、最後の総括質疑は「シーン…」再質問にも「シーン…」ただ、傍聴席からは熱い視線が注がれてきたのが伝わりました。

ごあいさつ ～～ 20年の泣き笑い議員生活を終えて ～～



訪問看護師として働いていた50代で突然受けたがん宣告。その時の様々な体験をきっかけに、医療・福祉・介護の充実をめざして20年、議員として活動してきました。

あっという間の20年でした。この度、5期目の任期を最後に議会を卒業いたします。皆さまにお届けして参りましたこの市政報告は、これが最終号となります。だれもが身近に議会が感じられるように、できるだけ工夫を重ねて、市政への疑問や税金の使い方など報告してまいりました。

たったひとりでの出発でしたが、誰に惑わされることもなく、その場その場で自分自身を信じて判断してきました。特定の党や支持団体もなく、20年という期間、市民派の無所属の女性議員が議席を確保し続けることは、市民の皆さま、おひとりおひとりの市民力のおかげです。それは同時に私の誇りでした。



初当選時、(すでに鬼籍にはいられた)市の幹部の方が「やっ、この議会にあなたのような人が来ましたか…」と。どんな議会なのか、この20年で改革できたこともあり、できなかったことも数多くあります。ただ、ひとつだけ、わかったことがあります。社会の変化は加速度を増しています。議会はいまだ古い価値観の壁があり、男性社会です。その男性社会の中で無所属の女性議員が20年、議会で議席を守ってきた、そのことに政治的意味ある！と考えています。

ひとりだけでなく、もっと多くの市民派の女性議員が誕生する環境を整えることが必要だと痛感しています。次の時代はもっと厳しい社会が待っています。若い世代にバトンタッチし、そのエネルギーで課題解決し、前進していくことを期待しています。どうぞ皆さま、これからも市民派の女性議員を応援してくださいませようにお願い致します。



門田よしこさんへの期待！



この度、私がバトンを渡したいと熱望したところ、覚悟をもって、「よし！がんばる」と挑戦を自ら決定したやる気まんまんの女性です。働きながら、学びながらの大学院生でもあります。

福祉をはじめ「おひとりさま政策」に力を注ぐ政策通です。また情報技術のスペシャリストとしての長い経験をこれからのデジタル社会にいかし、よりよい社会をつくっていくことを大事に考えています。

とにかく「人にやさしい人」です。市民参加の議会の実現を目指してのチャレンジに心からエールを送りたいと思います。

現在、市議会議員の定数54人のうち、女性議員はわずか5名。この状況を改革するためにもご支援をお願いする次第です。皆さまの代理人として、市議会へ送り出してください！

編集後記

事務所においでくださったり、お電話で寄せられた相談にひとつひとつ丁寧に寄り添う馬庭さんの姿を見てきました。お疲れ様でした。馬庭さん、次は何を始めるの？(高井) 20年前、たった一人で議会にきりこんでいった馬庭さん。長い議員生活で印象的なのは、どんな方の話もきちんと聞き、解決に導いていく姿でした。そしてそれを市政に生かしてきました。いつもいつも弱者の味方だったと思います。(高田) 70号で最終号。NEWSもほぼ馬庭さんと同じ年を駆け抜けてきました。NEWSを作ることで広島市のことがよく分かったし、皆さまからのご意見・ご感想を読んでとても勉強になりました。馬庭さんのとことん考える、そしてありとあらゆる方向から探る姿勢は、私の人生の糧となり財産です。本当に心から感謝です。ありがとうございました。(大田)

